

まえて一

- 検査の処理とテストバッテリー
- 発達期の心理
- 問題行動の気づきと対処の仕方

③ 主な講師

- 元千葉教育相談クリニック所長 向後正
- 福島県立医科大学神経精神医学講座助手 星野仁彦

(3) 学校カウンセラー講座 (中級)

① 期日・人員

- ア 共通 前期 7月1日～7月4日
後期 11月11日～11月14日
- イ 小学校教員 5名 中学校教員 20名
高等学校教員 10名 養護学校教員 1名

② 主な内容

- 検査の処理とテストバッテリー①② ○感受性訓練
- カウンセリング実習①② ○児童思春期の精神医学
- ロール・プレイングの基礎 ○自律訓練法の基礎
- 行動療法の基礎ー行動カウンセリグをふまえてー
- 学校教育相談の諸問題と事例研究、発表 ○交流分析

③ 主な講師

- 明治学院大学教授 神保信一
- 福島県立医科大学神経精神医学講座助教授 八島祐子

(4) 学校カウンセラー講座 (上級)

① 前日・人員等

- ア 共通 前期 6月17日～6月20日
中期 9月30日～10月3日
後期 1月27日～1月30日
- イ 中学校教員 20名 高等学校教員 9名
養護学校教員 1名

② 主な内容

- 教育相談の現状と課題 ○カウンセリング実習①②③
- カウンセリングテーマ研究①②③、研究発表
- 学校カウンセリングの理論と実際 ○行動療法の実際
- ロール・プレイングの実際①② ○思春期の精神医学
- 検査の処理とテストバッテリー
- 自律訓練法とバイフィードバック①②
- グループカウンセリング
- 家族カウンセリングの進め方

③ 主な講師

- 筑波大学教授 原野広太郎
- 立教大学教授 平木典子
- 新潟大学教授 内山喜久雄
- 山形大学助教授 末廣晃二
- 福島県立医科大学神経精神医学講座助教授 八島祐子

第3節 教育研究

1 学校の教育目標と教育課程に関する研究

(1) 研究の要点

学校の教育目標は、学校のあらゆる教育活動を通して達成すべき教育の「指針」である。各学校では、教育目標の重要性について一人一人の教師が十分に認識した上で、教育課程を編成し実践していくことが必要であるが、教育目標の具現に関しては多くの問題点が指摘されている。

本研究は、この問題の解決を目指し、第1年次は教育目標に対する教師の意識や指導計画等への具体化の程度についての実状をアンケートによる実態調査によって把握し、その結果の分析・考察を行った。第2年次の本年度は、小学校を対象として教育目標の具体化に関する資料事例の収集・検討を行い一般化を図った。

(2) 研究主題

学校の教育目標と教育課程に関する研究 (3年研究)

(3) 研究の概要 (第2年次)

- ① 学校の教育目標具体化に関する資料収集
○研究協力校一小学校14校
- ② 資料の検討及びモデルプランの作成 (14事例)
○教育目標検討の例 ○教育課程編成への具体化の例
○各教科・道徳・特別活動の目標への具体化の例
○授業案への具体化の例 他10事例
- ③ 教育目標の具体化に関しての理論追究
○教育目標の系列と構造化 ○授業実践への筋道

2 学習指導と評価

「関心・態度」の評価に関する研究 (II)

(1) 研究の趣旨

① 「学習指導と評価」に関する研究の意義
第一には、評価は指導のスタートであるとする考え方を基本としたこと。第二には、評価の対象を認知的、技能的側面の目標に限定するのではなく、情意的側面の目標にまで広げて考えること。

② 「関心・態度」を取り上げた理由

第一には、知識教育偏重を是正し、「人間性豊かな児童生徒の育成」をめざすために、情意的な側面の評価の重要性を再認識したこと。第二には、「関心・態度」の高まりがそのまま学習意欲や積極的な学習行動につながると考えられること。

(2) 昨年度の研究の内容

昨年度の「関心・態度」の評価にかかわる理論的な研究及び小学校社会科における実践的な研究の概要を述べた。

(3) 研究の手順

- 教科における「関心・態度」のとらえ方にかかわる理論的研究
 - 「関心・態度」の目標の設定や分析の方法に関する研究
 - 評価計画の立案及び評価法の選定
 - 検証授業の実施
 - 検証授業の分析
- 以上の手順で小学校音楽科と中学校英語科を取り上げ